国立大学法人長岡技術科学大学
令和５年度第２回経営協議会議事要旨

日　時　　令和５年９月19日（火）14時32分～15時44分

場　所　　長岡技術科学大学事務局第１会議室及びZoomミーティングによるハイブリッド会議

出席者　　鎌土議長、天羽委員、荒木委員、池田委員、小花委員、角田委員、合田委員、谷口委員、和田委員、梅田委員、吉田委員、佐藤委員、井原委員
（議事の表決委任による出席：磯田委員、関委員、Tran委員　欠席者：髙見委員、武田委員、髙橋委員）
陪　席　　日下部監事、野本監事、大塚附属図書館長
事務局　　事務局次長（総務担当）、大学戦略課長、財務課長、監査室長、企画・広報室専門員、国際・高専連携戦略室専門員、総務課専門員、企画・広報室専門職員、総務課専門職員、財務課財務企画係長、総務課総務係員（古川、速水）

議事に先立ち、令和５年度第１回の議事要旨（案）について説明があり、案のとおり承認した。

【審議事項】
１．工学研究科の改組に伴う学則の一部改正について
和田委員から、資料１に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、軽微な修正があった場合は、議長に一任することとした。
主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等　●：大学からの回答）。
○すべての工学分野にとって安全工学は重要な内容であり、この改組によって学習内容等具体的に何が変わるのか、高専の学生や教員等に対して丁寧に説明していただきたい。
●システム安全工学分野以外の学生も、システム安全工学や情報セキュリティに関する科目を学べるようなカリキュラム変更を行った。国立大学経営改革促進事業の中で安全工学関係のVRの教材の作成を開始しており、それらも含めて高専の学生に説明したいと考えている。また、ホームページや大学案内等でも、図を多用する等視覚的に分かりやすくしながら、高専の学生や教員だけでなく企業にも説明したいと考えている。

２．国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等の報告について
佐藤委員から、資料２－１及び資料２－２に基づき説明があり、審議の結果、報告書（資料２－１）の１ページの「監事による確認」欄の一部を以下のとおり修正の上、これを承認した。
（修正前）【対応】「自己点検・評価」の公開情報を追記しました。
↓
（修正後）【対応】「改善・向上状況報告書」の公開情報を追記しました。

【報告事項】
１．令和４事業年度財務諸表に係る承認について
佐藤委員から、報告１に基づき報告があった。
なお、今後、別途、目的積立金の承認が下りる見込であり、承認後、目的積立金の活用方法について、開学50周年記念事業を見据えたインフラの整備等を想定しているが、本会議で審議の上、決定したい旨の補足説明があった。

２．令和６年度長岡技術科学大学概算要求内示について
佐藤委員から、報告２に基づき報告があった。
主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等　●：大学からの回答）。

○基盤的設備等整備分と一体的に整備する組織整備分の新規予算が措置されず、基盤的設備等整備分だけに新規に１億円以上の予算措置がなされる見込だが、設備を置く場所はあるのか。また、設備費は一時的なもので措置されやすいが、人件費や事業推進に係る運営費は長期間の措置が必要となるので、上手に機能させられるかを確認したい。

○予算措置された設備を整えて研究を行う場合に、名称等関連があれば他の事業等の予算を使用することは問題ないのか。その場合、それらの予算による運営を考えないといけないという理解で良いか。

●現在、採択された地域中核の施設整備事業等により施設の建設を進めており、場所の確保については問題ない。また、他の事業等の予算で人材を確保しながら事業を推進できる体制を整えられると考えている。

３．地域中核・特色ある研究大学強化促進事業への申請について

鎌土議長から報告３に基づき報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等　●：大学からの回答）。

○時系列で10年後の未来の大学像について説明いただいた中で、Step１からStep３と進めていく際に、現状とのギャップがあると思うが、そのギャップを埋めるために今後とるべきアクションについて事前に協議がなされているか。

●本学は単科大学で、大学だけで考えられる範囲は広くないので、企業にも協力いただき、将来的に目指すStep３と、そこからのバックキャスティングを含めて検討した。

○10年後の姿からバックキャスティングして何が足りないかよりも、３～５年後の姿からバックキャスティングして何をすべきかを考えると、来年、再来年に繋げていくアクションを上手に導き出せると思う。

○考え方としては、ヨーロッパ等におけるサーキュラーエコノミーに近いと思うが、なるべく廃棄物が出ないようにするといったものづくりの最初の考え方から変えていくのがサーキュラーエコノミーで、ITとものづくりを併せて行っている長岡技大にとって、サーキュラーエコノミーが当然と考えられていく今後の社会において、地域との連携やグローバル化を含めて提案できると、先を見据えた新しい取組みができると思う。

●技術開発センターを改修し、企業とディスカッションできるオープンスペースを作り、DXRものづくりオープンイノベーションセンター(DX棟)、リージョナルGXイノベーション共創センター（GX棟）を建設し、これらを社会実装のための施設として一体化させようとしている。DXもITも駆使し、常に環境への配慮を意識したカーボンマネジメント技学に繋げていきたい。カーボンマネジメント技学に付随した研究等も全部取り込んでいきたい。その全体を総括するのがGX棟であり、広い意味でのサーキュラーエコノミーの要素を全部その中に取り込めると考えている。

○大学関係者の持っている技術が、10年後に主流となるような産業を作り上げるケースは多いと思うので、それを引き出すためのコンセプトを上手に作っていただきたい。今は少し現実的なところから提案している感がある。

●エビデンスベースの研究開発データを作り上げた上で、今後伸びていく研究分野については、企業と一緒に研究開発を進める共同スペースを確保したい。５年目までに環境を整え、研究開発を進めることができる体制にしたいと考えている。

○地域とグローバルの両方にインパクトを与えられる社会実装を目指していくと非常に良いと考える。長岡技大モデルのようなものが世界的にも広がると良い。

●例えば、日本の自動車部品メーカー等が進出している地域であるメキシコの大学とメタバース等も上手に利用しながら連携し、研究開発を進めていきたい。同様にベトナム等の東南アジアとの連携による国際共同研究も進めていきたい。また、地域との連携に当たっては、GX棟、DX棟、技術開発センターにおける研究及び人材を集約し、地域連携についてプロデュースできる人材を育てて派遣する等が長岡技大モデルとして考えられる。

●本事業における研究力の評価については、従来の方法で評価するのは難しいと思うので、

社会的なインパクトをどう評価するかを企業と連携しながら考えていきたい。研究力の向上については、連携大学や参画機関にも協力いただきながら取り組みたい。

４．その他

（１）両技科大が共同して設立するアライアンス法人に係る資料の一部改訂について

和田委員から、資料４－１から資料４－３に基づき、設立予定の一般社団法人の形態を「非営利型」から「普通型」に表記を改訂する旨の報告があった。

次回は、11月21日（火）に東京で開催することとし、詳細については、後日、事務局から委員に案内することとした。

以　上